ちいきで包む

第　２　１　号
平成 29 年 12 月 21 日
岩手県長寿社会課

町の認知症施策の一翼を担うボランティアの力！！

矢巾町おれんじボランティアの巻

平成 29 年７月に国の「新オレンジプラン」が改訂され、地域の見守り支援等の担い手となる認知症サポーターの養成目標を上方修正するとともに、養成講座受講者の地域の実情に応じた活躍を支援する取組を一層推進することになりました。

認知症サポーターによるボランティア組織「おれんじボランティア」を組織化し、認知症支援の活動を行っている矢巾町の最近の取組状況をお伝えします。

新オレンジプランの改訂

平成 29 年７月に認知症施策推進総合戦略「新オレンジプラン」（平成 27 年１月策定）が改訂され、2020（平成 32）年度末の数値目標を新たに設定する等の見直しが行われました。

この中で、認知症サポーターの養成については、近年の養成動向を踏まえ、目標を 1200 万人に設定し、地域の見守り支援等の担い手として、地域の実情に応じた活躍を支援するとともに、活躍の好事例の普及を進めることとされました。また、認知症カフェ等についても、2020（平成 32）年度までに全市町村に普及させることとされました。

毎月第２土曜日に認知症カフェが開催される矢巾町活動交流センター「やはぱーく」の開放的なオープンスペース

矢巾町ではこれに先駆け、平成 28 年 11 月に、町地域包括支援センターが中心となり、認知症サポーターが実践活動を行うボランティア団体「おれんじボランティア」を組織し、認知症カフェの運営をはじめ、認知症支援のさまざまな場面で活動を始めています。

平成 29 年 11 月 22 日、取材班は、矢巾町保健福祉交流センター（さわやかハウス）にお邪魔し、矢巾町健康長寿課、地域包括支援センター、そしてボランティアの皆様にお話を伺いました。

ボランティアの養成

平成 29 年９月末時点で、矢巾町では認知症サポーター養成講座受講者が 4,032 人、サポーター養成にあたっているキャラバンメイトが 28 人います。町では、以前から認知症サポーターが地域で活動する場を設けたいと考えており、サポーター養成講座受講者を対象に、認知症に対する理解を一層深め、地域で認知症支援の活動に参加してもらえるよう、ボランティア養成講座を平成 28 年９月に初めて開催しました。

開催にあたっては、自発的な参加を尊重し、あえて役場や地域包括支援センターからの

個別の声掛けは行わなかったものの、民生委員協議会や認知症カフェでのチラシ配布、広報への掲載だけで、25 人の認知症サポーターが集まりました。町が開催した講座は、ステップアップ講座 1 日、ボランティア養成講座 1 日の 2 日間、計 5 時間の研修です。この講座を修了した 25 人が晴れて「おれんじボランティア」となり、平成 28 年 11 月 12 日に結成式が行われました。

活動の概要

ボランティアの活動内容について、矢巾町地域包括支援センターの鱒沢陽香認知症地域支援推進員に伺いました。

矢巾町おれんじボランティアの活動立ち上げの中心となった、矢巾町地域包括支援センターの鱒沢陽香認知症地域支援推進員（左）と吉田均所長

○生活支援ボランティア

ボランティアが２人１組で利用者のお宅を訪問し、居室やトイレ等の掃除、ゴミ出しなどを行います。掃除が終わった後は、利用者とお茶を飲みながら話し相手になったり、テレビの放送に合わせて利用者と一緒に体操をすることもあるそうです。現在の利用者は３名。合計で月 10 回程度の支援活動を行っています。

○施設支援

グループホームやデイサービスセンターなど、認知症高齢者が多く利用する施設での活動です。夏祭りなど、施設の行事を手伝う活動が多くなっています。

○認知症総合支援事業の補助

町主催の認知症カフェは、現在、矢幅駅前の矢巾町活動交流センター「やはぱーく」のオープンスペースで毎月第２土曜日に開催しています。今では運営のほとんどがボランティアの手で行われています。また、介護予防教室や家族を対象とした介護者教室への支援を行っており、受付など地域支援推進員の業務補助が主な活動です。

生活支援ボランティアから、総合事業への展開

結成当初は、町や地域包括支援センターが主催する認知症カフェや認知症セミナー・介護予防教室などの補助が、ボランティアの主な活動でした。

ある日、地域包括支援センターに「地域で困っている認知症の人がいる」という相談が寄せられたことをきっかけとして、部屋の掃除やゴミ出しなどが難しくなってきた一人暮らしや高齢者世帯の生活支援を行うため、認知症の人がいる世帯をボランティアが訪問する活動も始まりました。利用希望者には、認知症地域支援推進員の紹介により、都合がつくボランティアが対応する仕組みとしていましたが、利用者からの相談は増加していったとのことでした。

平成 29 年 10 月には、改めて実施要綱を整備し、このようなボランティア活動による生活支援を「介護予防・日常生活支援総合事業」の訪問型サービスＢに位置づけ、町の介護予防・生活支援サービス事業の訪問型サービスとして新たなスタートを切ることとなり

ました。現在の利用者の中にも、ケース検討の結果、ボランティアによる掃除や洗濯等の日常生活支援を利用する一方、専門的なケアが必要な身体介護については介護サービス事業者のヘルパーが対応するという形で、ボランティアによるサービスを効果的に利用している例もあります。このような状況もあり、今後のボランティア養成講座は、生活支援に重点を置いた内容とする方向で準備が進められています。

ボランティアの将来

ボランティア活動の将来について伺いました。

（矢巾町健康長寿課　村松徹課長）

おれんじボランティアの皆さんは、町の認知症施策の推進に欠かせない存在となっているだけでなく、総合事業の多様なサービスの担い手になっていただき感謝しています。今後、町民から要望が多い、移送サービスの担い手となる有償ボランティアの組織化など、住民主体の多様なボランティア活動には大いに期待しています。

「ボランティアへの期待は大きい。」と語る矢巾町健康長寿課の村松徹課長

（矢巾町地域包括支援センター　吉田均所長）

おれんじボランティアの今後の活動については、地域共生社会の実現に向けて対象を認知症高齢者だけでなく、障がい児・者や児童にも広げていきたいと考えています。

しかし、資金、活動範囲、研修のあり方など、まだまだ課題は少なくありませんし、「介護予防・日常生活支援総合事業」の効果的な実施には、ボランティアを含めた多職種の関わりが一層必要になってきます。また、将来的には、認知症地域支援・ケア向上事業の一環として、認知症の家族を介護した経験のあるボランティアが、支援を要する認知症高齢者のいる世帯に入り、先輩としてアドバイスを送るという活動も考えています。

活動中のボランティアの声

（矢巾町おれんじボランティア　昆会長）

元保育士で、認知症の義母の介護を始めて８年目です。介護が始まってから、認知症について勉強しようと思い、様々な集まりやセミナーに参加していました。その一環でボランティア養成講座を受講しました。

認知症カフェに初めて参加した頃は、介護に悩んで落ち込んでいました。自分の話を聞いてもらおうと思い、認知症カフェに参加していましたが、いつからか話を聞く側の立場になっていました。今は笑って介護ができるようになりました。このボランティア活動がなければ、家に閉じこもりきりの生活になっていたと思います。現在は、義母も利用しているデイサービスでの読み聞かせなど、介

「ボランティア活動を通じて学ぶことが多い。」と語るおれんじボランティアの昆会長（右）と山下さん

護施設での支援活動を中心に参加しています。

ボランティアに参加したことで、多くの認知症の人と接することができ、いろいろな場面や状況に応じた介護ができるようになりました。介護施設の中で専門職が行うケアも参考になっています。ボランティア活動を通じて学ぶことが多く、本当に助けられています。

（矢巾町おれんじボランティア　山下さん）

民生委員を務めて 16 年目です。最初は、民生委員の立場で認知症カフェの支援をしていましたが、民生委員協議会でボランティア養成講座の開催を知り、養成講座を受講しボランティア活動を始めました。家族に認知症の人はおりませんが、自分が将来、認知症になる可能性を考え、勉強しようと思い立ちました。

民生委員としての担当地区は、新興住宅地が主で、高齢者は少ないのですが、町内には高齢者の多い地区もあり、民生委員活動にもボランティアの経験が生きています。

～ちょっと寄り道のコーナー～

せっかく矢巾町に出張したのですから、地元の美味しいものを紹介！

もりおか福祉ブランド推薦のイタリア製石窯と手作り生パスタが自慢のお店「エコレストランあいのの」にお邪魔しました。矢巾町間野々の国道４号線沿いにある、

障がいのある方々が働くレストランです。メニューに載っていた最新？の矢巾名物「やはばおでん」に食指が動きましたが、おでんは提供される日が決まっており、残念ながら今日はないとのこと。気を取り直し、これも町特産のシイタケをふんだんに使った、お店自慢のピザとクリームパスタをいただきました。一口含んだだけで、シイタケの香りが鼻腔をくすぐる、まさに地元ならではの新鮮な味と香りが楽しめる昼食となりました。ご馳走様でした！！

活動に密着

昼食後、取材班は、おれんじボランティアの活動場所である認知症対応型通所介護事業所「デイサービスつむぎ」に移動。矢幅駅西口の瀟洒な医療福祉多機能ビル「ケアセンター南昌」２階にあります。

今日の利用者は、６名。比較的利用者が少ない曜日に当たったようです。昆会長をはじめ、ボランティア３名も参加しました。

本日の活動は、紙芝居や絵本の読み聞かせです。30 分前に同じ建物内にある地域包括支援セ

今日の活動について打合せを行う３人のボランティア

ンターの会議室に集まり、昆会長が町の図書センターから借りてきた紙芝居や絵本などの中から、今日使う本を３人で選びます。

昆会長は、保育士として長く活躍されました。読み聞かせは、まさに、プロの腕前！

午後２時から活動開始ですが、ボランティアと利用者の方々は、もうすっかり顔馴染みで、利用者のみなさんも大歓迎です。

さっそく読み聞かせが始まりました。「さるかに合戦」の紙芝居です。待ちかねていた利用者の方々は、じっと聞き入っています。他のボランティアと介護職員も同席し、利用者の側に控えていますが、終始和やかな雰囲気です。

高齢者向けのことわざの本なども読み聞かせしましたが、この間、手遊び歌を歌いながら、みんなで声を出して手や体を動かしたり、２つのテーブルそれぞれにボランティアと職員が入り、少人数での読み聞かせや、お茶を飲みながらの会話で、楽しい時間を過ごしました。

（デイサービスつむぎ　小野寺亜希介護支援専門員）

本格的におれんじボランティアの活動が始まったのは、今年４月からです。多くの利用者に会いたいというボランティアさんの意向もあり、月１回、曜日は決めずに活動してもらっています。昆会長を中心にいつも２、３人のボランティアの方々が来られます。

読み聞かせは、紙芝居と絵本が中心です。１作品読んだ後は、手遊び歌で手や体を動かすなど、緩急をつけて利用者を飽きさせない工夫をしています。

小野寺介護支援専門員（右）と「デイサービスつむぎ」職員の皆様。取材への御協力ありがとうございました。

また、時には季節の花や植物を持参して、季節の話や行事の話もしていただいていますが、季節感を認識しづらいという、認知症の方の特徴をご存知のボランティアの皆さんならではの心づかいと思います。

話の流れを切らないように利用者との会話につなぐように気を付けていますが、その話が発展して、利用者の方が、昔日を思い出す回想につながることも多いようです。読み聞かせなどにより、利用者の状態が安定していれば、職員はその間にカンファレンスやアセスメントをすることもできるので、非常に助かっています。

家族の集いなど、行事のお手伝いもお願いしていますが、家族の集いではボランティアの皆さんも家族の話を聞くなど、「立派な戦力」になっています。

ここで取材班は、一足先に失礼しましたが、利用者さんたちの明るい笑顔とボランテ

ィアの皆さんの充実した笑顔が印象的な取材でした。

地域の見守り支援等を担う認知症サポーターの活動の好事例として、「矢巾町おれんじボランティア」の活動状況を引き続きフォローしていきたいと思いますので、どうぞ、ご期待ください。

取材を終えて・・・・・

「ちいきで包む第21号」をご覧いただきありがとうございます。在籍３年目にして、今回初めて執筆を担当しました。

市町村職員の方々から、認知症サポーター養成講座を開催してサポーターは増えたけれど、どんな活動につなげればいいのか、という声を未だに耳にすることがあります。

そんな声に応えるには「好事例」の紹介が一番というわけで、今回のテーマは「町の認知症施策の一翼を担うボランティアの力」として、「矢巾町おれんじボランティア」の活動を紹介しました。まさに今年は「新オレンジプラン」が改訂され、平成30年度からの第７期介護保険事業計画の策定時期でもありますので、各市町村においては、認知症サポーターの活躍を支援する取組を、どのように計画に位置付けるかが喫緊の課題となっています。

矢巾町の認知症施策の取組を『ちいきで包む』で取り上げるのは、平成25年12月の第２号以来４年ぶりとなります。２度目の登場となった矢巾町地域包括支援センターの吉田所長と鱒沢専門員をはじめ、取材にご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

まさに「認知症高齢者等にやさしい地域づくり」を実践している矢巾町。前回取り上げた「劇団おたすけ」や「わんわんパトロール隊」の活動も順調に続いているようです。また、平成28年5月には岩手医科大学と協定を締結し、全国規模の認知症コホート研究の一環として、65歳以上の住民を対象とした、認知症の発症に関連する要因を明らかにするための健診事業「やはば脳とカラダのいきいき健康講座」を開催しています。次の機会に、これらの取組も紹介できればと思います。

微力ではありますが、認知症の人を地域で見守る市町村の仕組みづくりに、本紙記事が少しでもお役に立てれば幸いです。

本号では、要望が多い!?～ちょっと寄り道～のコーナーも復活させました。ただ、本号執筆担当はシイタケがちょっと苦手というヘタレで、食レポはデスクにお任せしてしまいました。ご免なさい。

（なんでも取材班「 ◎」）

「ちいきで包む」は、岩手県内市町村の地域包括ケアシステム構築をアシストするため、各地の特色ある取組や、関係する情報を発信する情報紙です。

企画・発行（問合せ先）
岩手県保健福祉部長寿社会課（本号担当：藤丸、森）　平成 29 年 12 月 21 日発行
TEL:019-629-5436　FAX:019-629-5439　E-mail:AD0005@pref.iwate.jp